今　は　昔　物　語

福　井　玉　夫

東京市小石川區原町二七

予が蜘蛛學會の評議員たるを今の若き方々は或は訝り給ふならんも本誌1巻2號に誌し置きつる「蜘蛛採集の思ひ出」を讀み給はゞ嘗ての日予が蜘蛛研究に熱心なりし次第を識りて必ずしもお門違ひにあらざるを諒とせらるゝなるべし。中學生の頃自ら日本の蜘蛛類圖說の編述を思ひ立ち圖と記載を作り一つ二つと增し行くを樂しみとしたりしが中途にて挫折し完成に至らずして止みぬ。此の由を幹事の方々に不圖物語りしに其の圖說を見まほしと需めて止まず。頃日筐底を探りて測らずも其の內の2葉を見出したり。餘のものは何處に行きしや今は知れず。2葉何れも四六倍判の用紙に表に全形及び部分圖を描き裏面に細字にて記載を施しあり。No. 1 (即ち Plate I) とせるはふたすじおゝかみぐも(假稱)としたるが植村氏に據ればキクヅキドクグモ *Lycosa pseudoannulata* Kishida ならんと云ふ。亦 No. 2 (即ち Plate II) にはくろきばしろくもなる假稱を附したるが之も植村氏に據れば今日のハマキフクログモ *Clubiona japonicola* Boesenberg et Strand なりと云ふ。五郎時致ならずとも此の古き圖を見るにつけ憶ひ出だすは二十餘年，予にとりては懷しき成績品なり。幹事の方々より是非此の圖說を誌上に公にせよと迫らるゝまゝ決して予の本意にはあらざるも其の勸說にほだされ初春のお笑ひ草として當時の儘の圖と記載とを揭ぐることゝはなしぬ。覽る人其の心して一途に咎め給ふ勿れ。

No. 1　ふたすじおゝかみぐも (假稱)

攝津國西成郡十三村產 (1. 12. 42.)

全體　泥褐色ノ種ニシテ背面ノ模樣上顎毒爪脚紡績器等ハ多少他色ナリ體長2—2½分脚共凡8—9分頭胸部ハ腹部ヨリ短ナレドモ幅廣ク8厘許アリ一體ニ毛ヲ密生シ唯眼，背

面，毒牙，爪ノミ毛ヲ缺ク所々剛毛ヲ生ゼリ。

頭部　項ハ黒色ニシテ側面ハ黄褐色ナリ半圓狀ヲ呈シ毛ヲ密生シ殊ニ前面及眼ノ周圍ニ長キ黒色ニシテ光澤アル剛毛ヲ粗生ス殆ンド胸部ト同一ニシテタヾスコシク側面ニ於テクビレタルヲ以テソレト知ラルヽノミナリ幅凡5厘長サ凡ソ4厘上顎ハ二分ニシテ基部ハ太ク且强ク黄白色ヲ呈シ先端ノ毒爪ハ赤褐色ヲ成ス下顎ハ五節ニシテ全體凡ソ2分基節ハ赤黄色咀嚼所ニ於テ白毛ヲ生ズ其他ノ節モ皆毛ヲ密生先端ノ節ヲノゾイテ他ハ皆數本ノ黒色ノ剛毛ヲ有ス雄ニアリテハ先端ギボシ狀ニ膨大シ生殖器ヲ成ス第二節ハ最長扁平ナリ第三節最小第四第五此レニ次グ眼ハ八個顱頂眼最大後左，右側眼之ニ次ギ額眼及前左，右側眼ハ殆ンド同大ニシテ額眼ノ凡五分ノ一ナリ黒褐色ニシテ光リ前左，右側眼ハ深ク毛中ニ存在ス全體ヤヽ倒梯形ニ排列シ左右後側眼ハ最モ相離レ顱頂眼ハヤヽ相接近シ額眼及左，右前眼ハ殆ンド一直線ニ列シ其兩側眼ノ距離ハ顱頂眼ノ距離ヨリ短シ。

胸部　殆ンド圓形ヲ成シ中央ニ縦ニ一條ノ眞黒線其兩側ニ太キ黄白條ヲ有シ尙眼ノ後部ニ於テ三條ノ淡褐黄線ヲ有ス然シテ尙縁ニ於テ黒條ヲ有シ之ト平行シテ黄白色ヲ呈ス中央ノ横條ト縁ノ黄條トノ間ハ淡色ニシテ中央邊ヨリ上部ニ毛ナク下部ニ下方ニ向テ毛ヲ生ズ胸板ハ淡灰色長キ白毛ヲ上下ニ密生ス殆ンド圓形ヲ成シ長サ凡ソ4厘幅$3\frac{1}{2}$厘ヲ有ス肢ハ全體淡黄灰色ニシテ毛ヲ密生シ第七節ヲノゾク外皆少數ノ黒長剛毛ヲ粗生ス尙少シク斑色ヲ呈シ節ノ接合點ハヤヽ濃色ヲ成スヲ常トス長サ第一第二第三對共殆ンド同長ニシテ各2.8分第四對ハ最長ニシテ凡ソ4.2分ニ達ス爪ハ二個ニシテ褐色先端鋭シ。

腹部　大ニシテ大凡長サ一分五厘巾八厘ヲ算シ圓シ尻端ニ至リテ次第ニ少マル灰褐色ニシテ上面ニハ褐色毛ヲ生ジ半分ヨリ下面ハ長キ絹糸狀ノ毛ヲ一面ニ密生シ肺囊ノ在所ヲ少シク表面ニ表ス上面ノ模樣ハ黄褐灰色ノ蛇目狀ノ點ヲ四對程有シ二列ニ列ビ後方程對間ノ距離接マレリ然テ上方ニテハ其中間ニ明瞭ナラザル條ヲ備フ紡績器ハ六個正方形ニ排列シ大ナル者其四隅ヲ擁ス肢ト同色毛ヲ密生ス長サ凡$1\frac{1}{2}$厘巾5厘ヲ算ス小ナル者ハ中央ニ在リ。

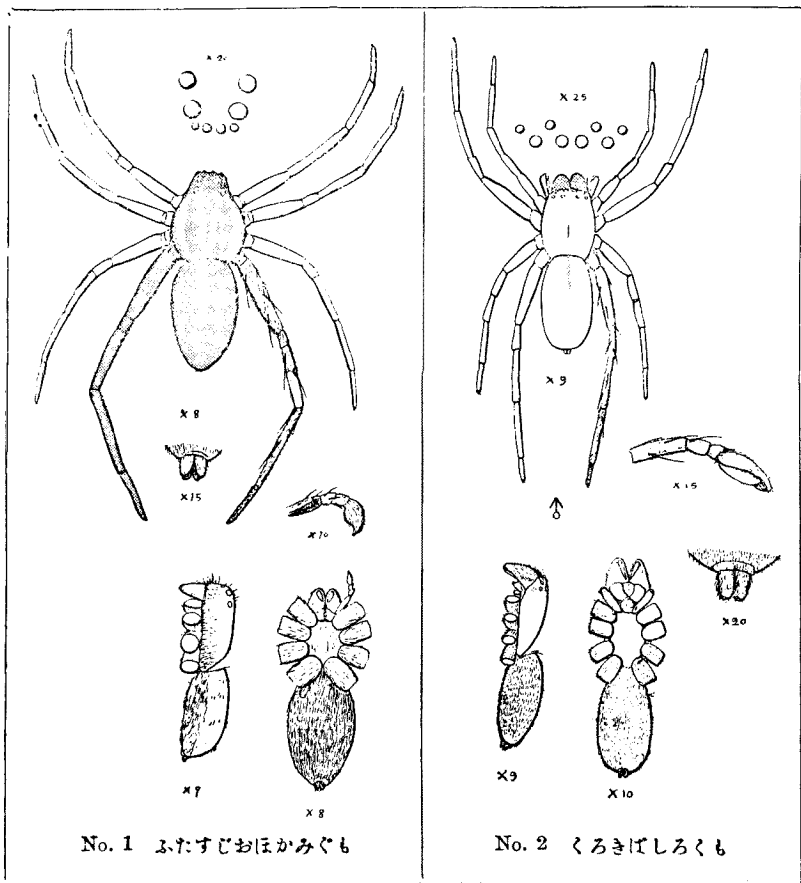
No. 2　くろきばしろくも（假稱）

全體　黄白色ノ種ニシテ上顎，眼，爪，下顎ノ外ハ皆同色多少濃色ヲナス所アリ長サ凡ソ二分最モ廣キ幅員凡五厘足共全體凡四分五厘厚サハ普通ナリトス全體ニ白毛ヲ密生シ毒爪，眼，爪，胸板ハ無毛ナリトス尙腹部ノ前端及上顎ニハ黒色ノ剛毛ヲ粗生ス模樣トテハ別ニナシ。

頭部　色ハ體色ヨリヤヽ濃色ニシテ殆ンド胸部ト區別ナシ微カニ横面ニ於テ凹所アル爲ソレト知ラル幅凡ソ四厘許ナリ上顎ハ黒褐色ニシテ毒爪ハ半透明赤色ヲ帶ブ大ニシテ上面ヨリ明ニ前方ニ突出ス白毛ヲヤヽ密生シ毒爪ハ長シヤヽ不正形ヲナス下顎基節ハ大

黑褐色毛チ有ス下顎鬚ハ長ク黄白色白毛チ密生シ一二三節ニ黑剛毛ノ長キチ粗生ス三四節最短ニシテ第五節扁平トナリテ下面ニ♂ニアリテハ精嚢ヲ有ス精液嚢ハ黑褐色ニシテ無毛先端ニ短カク尖レル陰莖チ有スコレモ同ジ黑褐色ニシテ先端鋭シ尙第四節端ニ黑色ノ刺チ有ス眼ハ八個ニシテ共ニヤヽ曲レル二線ニ並列シ顱頂眼最大ニシテ後左右側眼モ殆ンド同大ニシテ額眼及左右前側眼モ同大ニシテ前二對ヨリハヤヽ小ナリトス黑色ニシテ前列ハ互ニ密接シ後列ハ互ニ相離ル眼ノ周圍ノ眼ハヤヽ長毛チ有ス尙前列ト後列ノ距モ少ナリトス。

No. 1 ふたすじおほかみぐも

No. 2 くろきばしろくも

胸部　頭部ニ次ギテ同ジク黄白色正楕圓形ヲナス背面ニ一箇ノ短黒縦線ヲ有ス一面ニ粉状ノ密毛ヲ有シ宛然裸出セル如シ後方ニ至ツテ漸々ニ下ル胸板ハ黄白色强キ光澤ヲ有シ無毛長楕圓形ナリ肢ハ黄白色白毛ヲ密生シ基節及第七節ヲ除キテノ外ハ黒キ長剛毛ヲ刺ノ如ク數本粗生ス第一對ノ肢ノ腿節ハ短カシ長サ凡ソ第一對ハ一分八厘第二對ハ二分五厘第三對ハ二分第四對ハ二分七厘許アリ爪ハ黒色二個ヲ有ス。

腹部　大ニシテ同ジク黄白色ヤヽ長倒卵形ヲナス全體白色毛ヲ密生シ腹ノ半下面ハ殊ニ密生ス模樣トテハナケレドモ背面前方ニヤヽ濃色ノ判明セザル太キ縦線ヲ有シ半バマデ至ラズシテ消ユ凡一分二厘幅凡ソ五厘ヲ算ス紡績器ハ六箇内四箇ハ大ニシテ四隅ニ出シ小二個ハ中央ニ隱レテ外ヨリ見エズ黄白色ニシテ全體白キ密毛ヲ有シ大ニシテ凡ソ長サ二厘幅八毛ヲ算シ外面ヨリ腹部ノ外ニ突出シタレバ能ク見ユ。

明治四十二年十二月一日攝津國西成郡十三村ノ土中產ニヨル尙§ニヨリテ檢定記戴シタリ。

「パラオ島の蜘蛛二種に就て」の記事訂正

植　村　利　夫

予は本誌 Vol. 1. No. 4. pp. 146–147 に「パラオ島の蜘蛛二種に就て」と題して高橋敬三氏採集の *Argiope reticulata* と *Leucauge sp.* に就て發表しておいたが，其の中後者の習性に就て

「高橋氏のお話では此の蜘蛛は向ふでは家の中へ侵入して來て書棚の間等へ澤山糸を張り廻して困るさうで，これはコガネグモ屬の種類としては寧ろ不思議な習性である。」

と述べた部分がある。所が其の後高橋氏の御注意を受けてまことに申譯ないことをしたと思つた次第であるが，これは全く予の聞違ひで，此の蜘蛛は全然この樣な習性なく次に記す話と混同してゐたものであつたことが解つたからこゝに訂正して採集者高橋氏並に讀者諸氏にお詫びする。次の話とは即ち次の通りである。

本の背表紙とか本の間とかに入つて來て巢を造るのは（内地でも見られるものと同種か否かは解らぬが）彼の有名な蜘蛛狩をする寄生蜂の一種で，前記の樣な場所に泥の巢を營み其の中に *Leucauge sp.* を澤山入れてゐるのである。其の一つの泥の巢の中には蜘蛛が五六匹入れられており，調査した結果蜘蛛は巢の中では半殺しの狀態にされてゐたとの事である。

不可解と思つてゐた *Leucauge sp.* の習性の記事が誤りであつたことが解つたと同時に又寄生蜂に就ての新しい事實を知ることが出來て非常に嬉しく思ふ。高橋敬三氏に深謝の意を表する。（昭和十二年三月十日記）